

目的

生徒の質問力向上

※1・2年合同授業での交流後、1年生の約半数が「英語で質問できなかった」という経験から、「問いの力を高めたい」というモチベーションが生まれたことが本活動の背景

①リスニング&メモ作成

教科書の登場人物の発言を聞き、「何を質問したいか」という視点でメモ。

※相手・場面・目的を意識して情報を受け取るリスニング

②質問を考え、GELPで文字起こし

登場人物への質問を考え、ペアで共有。GELPで自分の発話を録音・文字起こし。語彙・文法・発音について個別最適な学び。

③黒板共有（思考の可視化）・自己調整学習

GELPや他の語彙学習アプリなどを使った個別学習。生徒が自分の課題に合わせて取り組む。
"どうやって伝えたらいいんだろう"という思いが学びへの動機に。

実践例

実際に生徒が発話した内容

AIの即時フィードバック
赤：間違っている箇所
緑：AIによる訂正

正しいフレーズでの発音チェックが可能
(音素レベル)

What is your question to Ms. Chen?

Q1. What do you think about this sentence?

発話する

話した文章:
Can you cook Chinese food? Can you cook Japanese food? Can you write kanji? What Chinese food do you like?

添削結果
Can you cook Chinese food? Can you cook Japanese food? Can you write kanji? What Chinese kind of Chinese food do you like?

発話してみる

発音スコア: 94 点

教師の役割

生徒の問いに「価値づけ」し、文化的な視点からの発想の広がり支援

→「何を伝えるか」の質を高める指導

AIの役割

発音・文法などの技能に関する支援

→「どうやって伝えるか」の質を高める指導

GELPの効果

「伝え方」を自ら整える姿勢が育ち、単なる英作文/暗記ではなく「相手に届く英語」を自律的に磨く学びに